

2026年12号機古川ももの木保育園に設置

きらきら発電は5月6日の2025年年次総会で2026年のきらきら12号機を、社会福祉法人宮城厚生福祉会所属の古川ももの木保育園に設置することを確認しました。規模はPCS9.9kw・パネル15kwで、FIT(固定価格買取制度)を利用します。蒲生6号機と同じ規模ですが、ももの木保育園は高圧電力仕様なので、総経費を350万円と想定。昨年亡くなられた小河原武氏の寄付金100万円にプラスしてきらきら発電が100万円を負担、残りの150万円を新たな寄付金でまかなう計画です。5月より寄付金応募を開始する予定ですが、既に8名の方から17万円の協力をいただいています。プロジェクトウサミとパートナーズに見積もりを依頼し、価格の低かったパートナーズと契約しました。工事は2026年8月の予定です。



きらきら2025年度経営は三重苦予想！

通信機更新・保険料倍化・出力制御強化で、市民発電は火の車

東北では2022年に始まった出力抑制ですが、4年目の2025年度中に、「通信機を3Gから5Gに切り替えることが総務省によって義務化」され、きらきら発電では今年105万円の支出が発生します。さらに昨年まで年間56万円だった保険料が近年の水害の増加で107万円と倍化します。この2つだけで156万円の支出増となります。それに加えて、毎年強化されてきた出力制御が2025年は原発再稼働によりさらに増強されます。東北電力は太陽光発電一基当たり、2025年度は年間82日制御する計画を公表しています。きらきら発電では昨年度の3倍40万円程度の収入減を予想しています。支出増156万円に収入減が27万円。これからは厳しい経営が続きます。まさに市民電力つぶしの政策と言えます。

今年は初めて平日にも出力制御、しかも1ヶ月に複数回

2025年4月から東北電力の出力制御が強化されています。土日は毎週対象で、平日も4月22日・24日に続き、5月1日も制御されました。全国の市民電力連絡会に訴え、抗議行動や政府



への申し込み等、具体化したいと考えます。左図は多賀城発電所の5月1日の発電グラフ。9時～15時の6時間制御です。

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース

2025年5月

第127号

〒981-3215 仙台市泉区

北中山3丁目17-12

070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/

hirohata3888@outlook.jp

泉病院、5月より新病院稼働

太陽光発電(パネル32kwPCS19.8kw)9月に設置



太陽光発電を設置する計画です。パネル 32kw・PCS19.8kw で、すでに架台が屋上に取り付けられています。

仙台市泉区長命ヶ丘にある泉病院新病院が4月完成し、入院が5月3日より、外来が5月7日より稼働しています。

泉病院は5月宮城県に「自家消費型太陽光発電設置のための補助金」を申請し、その審査結果が判明する9月、屋上に

きらきら発電の歩み(6)脱原発・気候危機ストップ・平和を守る

きらきら発電が自然エネルギーを増やす理由は、原発に頼らず地球温暖化を阻止し、世界の平和を守ることが目的(定款に記載)です。あわせて福島事故による放射能汚染による内部被曝の防止を定款に記しています。

(写真右上=2013年8月18日女川風船プロジェクト)そして2015年結成の「脱原発仙台市民会議」に団体加盟。2016年3月11日には、24団体238名の賛同者を得てメモリアルアクションを実行しました(右下写真=その時の宣伝チラシ)。夜8時から1時間電気を使わないことを提案。その効果が東北電力の資料にみごと現れていました。

2016年3月着工された仙台港の仙台パワーステーション(石炭火力)の運転中止を求め、多くのきらきら会員が訴訟団に加わり、仙台地裁に訴訟を起こしました。気候危機ストップを掲げる若者FFF仙台と協力し、パワーステーション周辺路上をデモ行進し、多賀城駅周辺でもスタンディング抗議行動を展開しました。2023年には仙台港に建設されているバイオマス発電施設の運転中止を求める市民運動を開始しています。

放射能の内部被曝問題にも取り組んでいます。2017年6月17日、元放射線医学総合研究所主任研究官の崎山比早子氏を講師に招き、「低線量被曝による健康被害」講演会を開催。210名もの参加を得ました。2019年6月30日には大河原町にある市民放射能測定室ととてとの代表三田常義氏を招き、「宮城県の放射能汚染と内部被曝」講演会を開催。69名が参加されました。

2015年に宮城県が提案した「放射能汚染廃棄物一斉焼却」に対して反対運動を起こすために立ち上った「一斉焼却反対宮城県民連絡会」にいち早く団体加盟し、理事長水戸部秀利氏は各地で講演者として活躍(仙台市泉区2017年2月など)しました。きらきら発電が入会した脱原発仙台市民会議は仙台市相手に3度の交渉(市民百人以上の参加)を持ち、2017年9月ついに仙台市から「一斉焼却には加わらない」ことを引き出しました。これらの市民運動が、7月の市長選挙に反映し、市民の会推薦候補者の勝利となりました。

そして2018年に行われた「原発県民投票条例制定運動」にも積極的に参加。市民発電所のある市町村・市区が高い署名率を維持し、県内の運動をけん引しました。

(広幡 文)

